

初任者等を対象とした 「保育に役立つ事例集」



幼児教育実践交流セミナー

(造形)

保育者が意識して行っている環境構成やかかわり

子どもの活動や思い

ポイント(振り返り)

色作り ～自分で考え、試行錯誤してみよう～

◎対象：4, 5 歳児 ◎ねらい：○色の変化を知る ○試行錯誤しながら、自分でやってみようとする

◎活動内容：3原色から6色(いろいろな)の色を作る

①導入 園に手紙が届き、ミッションを手伝って欲しいという内容。サークルタイムにて、子どもたちに話す



子どもたちが楽しみながら取り組めるようにミッション形式にし、実際に手紙が届くなど、ワクワクする気持ちを大切に導入した。



②テラスコーナーにて、4人ずつ行う
準備から片付けまで、自分たちでできるように環境を構成した。

●子どもたちの気付き
・じょうごで入れるとぶくぶくなるな～
・いっぱいになるギリギリまで入れるにはどうしたらいいかな
・さいごは、ちょっとずつ入れたほうがいいかな?



③見本の色を見て、色を作ろうとする

子どもたちができないな～と話しているときも、できるだけヒントは言わず、何度でもやっていいということを伝えた。自分でやってみて、試行錯誤しながらできた経験をしてもらいたいと考えで行った。

「くらべてみよう♪」



異年齢児や友だちどうして、一緒に考え、手伝おうとする姿が見られた。写真は「この色できてる？」と見本を見せている様子。

④ミッション達成!



この写真を次の日には、ミッション達成というところに掲示した。スピード性を重視した。

自分で何度も試してできたことで、保育者に「できた～!」と自信たっぷりに伝えにくる姿が見られた。



試す中で違う色になっても、新しい色のジュースとして発展させた。

●遊びの充実と育ちや学びにつながるポイント(振り返り)

- ・自分で全て準備から片付けまでできるようにサイズやものにこだわって環境を設定したことで、自分で試行錯誤しながら行うというねらいを達成し、体験から学びにつながる機会となった。
- ・保育者も設定の中で、最後までなれること。子どもの気付きに耳を傾け、その発見に共感することが大切。
- ・想定した以上のことがあった場面でも、臨機応変に展開させ、子どもが主体的にしたいという思いに寄り添うことで、より遊びが充実した。
- ・保育者が言葉をかけ過ぎないことで、子どもが自分で考えていろいろとやってみようとする姿につながった。

⑤片付け・ミッション終了

片付けの仕方を最初の子どもたちに伝えると、「こうするんだよ」と、次は他の友だちに教え、意欲的に活動する姿が見られた。

ミッションという形に最後までこだわり、完成したジュースを届けるという設定で終了した。

絵の具を使った絵画、造形遊びにつなげる

(造形)

日常の保育の中での造形遊び 3歳児

- ねらい
- いろいろな素材を自由に選び、工夫しながら造形遊びを楽しむ
 - 三原色の絵の具を使って自由に描いてみよう

- 自分で準備から片付けまで子ども自身で行えるような環境設定、配置、扱いやすさを考える
- 水道に近い所を制作コーナーにする

乾燥棚 (子どもが自分で置いたり、取ったりできるもの)



三原色の絵の具

雑巾も置いておく



子どもが扱いやすいように容器を入れ替えて使用する
※絵の具、パレット、画用紙は、同じ場所に置く



青と黄色でみどりになった！！オレンジ色は何色を混ぜたらできるかな・・・



黄色をすこーしだけいれよ



水いっぱいつけたら、虹色みたい！

色作りの試行錯誤が分かるパレット



試行錯誤している時は、声をかけず見守り、子ども自らの気づきを待つ。繰り返し試すうちに、子どもが自分で発見したり気付いたり、工夫したり、その姿こそ大切にしたい学びの姿！！繰り返し遊ぶ経験を大事にしよう！！

制作コーナーには、子どもが自分で選んで造形遊びができるように、季節のぬり絵、折り紙、切り絵、自然物、のり、はさみ、セロテープなど素材や道具を揃えておく

ハサミや自然物を使っての造形



落ち葉をぺたぺた。顔つけたよ

トンボとカマキリの切り絵完成！

●遊びの充実と育ちや学びにつながるポイント (振り返り)

- 2歳児クラスから3原色絵の具を使って造形をしてきていることもあり、感触を楽しむだけでなく、色を作ることも楽しんでいた
- 季節が秋だったこともあり、秋探しに散歩、さつまいも掘りや虫さがしなど、子ども自ら経験できたことが制作・造形意欲につながった
- 絵の具を制作コーナーに常時出して、自由に使える環境にしたことが良かった。いつでも続きができるように置いておくスペースを確保し、納得いくまで遊べるように、明日も続きができるようにしたことで、遊びが継続し、じっくり色作りを楽しむことができた
- 保育者が「●●を作りましょう」と作らせる保育者主体の造形ではなく子どもがやってみたい、と前のぬりに取り組めるような子ども主体の造形遊びができるように、子どもが今、何に興味を持っているのか、まずは知ることが大事！！
- 子どもも保育者も失敗こそ学びのチャンスととらえ、繰り返しチャレンジする

(造形)

廃材遊び～日々の自発遊びの中で～ 4歳児

ねらい 新しい環境に慣れ、家庭的な雰囲気の中で安心して遊び、先生や友だちと過ごす喜びを味わう
廃材で様々な素材に触れ、自由に貼ったり切ったり工夫して作る楽しさを知る

1. 式花パフェを作ってプレゼント



入園当初は、保護者への思いが強い時。「お母さんの為に」という気持ちが子どもたちを元気にさせ、保護者にとっても安心感につながる。



「お面、作ったよ！
バア！おどろいた？」

「くっつけたい」の子ども
の声を聞き、セロテープ
の使い方を教える。周り
の子どもにも見えるよう
にして、力を入れるポイント
を伝える。



「帽子だよ」



「叩いてみ
たらいい
音がする
よ」



どんな音がする？



降園前に保護者の前で発表会。
はりきって演奏する様子。

2. 廃材を魔法のおもちゃに変える 子どものアイデア

大小の段ボールを用意した。はじめはどう遊んだらいいかわからない様子。保育者が箱を立ててみて「どうしようかな～？」と言っていると、「それはこうやって使おう！」と、子どもたちからしたいことが出てきた。その後の子どもたちは、電車にしたり車や家や楽器にしたり・・・ちょっとしたヒントがアイデアにつながり、毎日遊びこんでいた。

「中に入れるように穴を開けて」
「ドアにしてちょうだい」



「セロテープで色んな物
を貼り付けたパトカーだ
よ！」



「インターフォンも
つけよう」

「もう一つおうちを作りた
い」と言い、もう一軒建
つ。おうちごっこを通
して、かかわりが出て
くる。



「ぼくのお家だよ。
嬉しいな」



●遊びの充実と育ちや学びに つながるポイント(振り返り)

- ・廃材遊びは、素材や形が様々であることから、自由にイメージやアイデアを表現しやすく、それぞれの個性が光る遊びである。
- ・子どもたちの「〇〇したい」という思いをひきだし、保育者も手伝いながら一緒に楽しむことが大切。
- ・環境を用意しながら、子どものアイデアに寄り添い、子どもの思いの実現や遊びの発展につながる保育者のかかわりを大切にする。



「段ボールってあたたかいね」

わたしたちの町 (町探検に出かけよう) 4歳児

〈ねらい〉・形や大きさを認識し、イメージしたものを作り上げようとする

- ・自分の考えを出したり、相手の意見も受け入れたりしながら進めていく
- ・友だちと共通の目的をもって活動をし、あきらめずにやり遂げる達成感を味わう

地図の出ってくる絵本や迷路の絵本を読み聞かせする。散歩に出かけた時に道路やお店・信号・看板などを発見しやすく、より興味が持ちやすくなる。



子どもの気付き

この屋根の上に看板あったな！
 絵の具よりペンの方が小さく書けるな！

数量・図形、文字等への
 関心・感覚

思考力の芽生え

ここは、薄い紙で貼ったほうが貼りやすいかな！

このような気付きから…

思考力、判断力、表現力等のスタートとなる。



子どもたちがイメージしやすいよう、様々な形や大きさの廃材を用意し、また絵の具やペンを揃えておく。自分で選べるような環境構成を心掛ける。

子どもが自分で考えて行動できるようにするためには、自ら選んで遊びだせる環境が必要。どこに何が置いてあるかひと目で分かるようにしておくとい。

〇〇君、この2階建てはどうやって作ったの？

言葉による伝え合い



子どもの会話を聞きながら「倒れないようにするにはどこに貼ればいいかな？」など具体的なアドバイスをしつつも最終的に決めるのは子どもに委ねる。

失敗を繰り返しながらも、最後までやり遂げようとする姿を大事にしたい。

自立心

子どもが主体的にかかわり、考えたり工夫したりしながら諦めずにやり遂げる＝達成感を味わう



遊びの充実と育ちや学びにつながるポイント (振り返り)

- ・何日もかけて作る時は、「途中の物置き場」を設置することで、明日も続きをしようという気持ちが強まる。
- ・こんなので作りたい…でもできない。子どもは揺れ動きながら、行動をしたり立ち止まったりしている。その中で自分なりに考えたり試行錯誤したりしながら完成させようとする。ゆっくり見守りながら自分で乗り越えられるように導くことが大切。
- ・話し合いを通して、友だちと自分の思いを言葉や行動で伝え合っているか。
 自分たちの力で達成すること、表現することの楽しさを感じていることができているか。
 ⇒これらのことを意識しながら、子どもたちの発見や喜びに共感し、共に楽しめるような保育を心掛ける。

(造形)

～「ゴーゴーもぐらたたき」(ゲーム屋さんができるまで)～

◎対象：5歳児

◎ねらい： 友だちとアイデアを出し合い、試したり考えたりしながら思い描く自分たちの店を作る。

◎活動内容：自分たちでしたいお店を考える。お店ごとに必要なものを作る。

毎年11月に年長児が遊びの場(お店)を作り、異年齢児もお客さんで招待し、一緒に遊ぶ行事の取り組み「こどもまつり」

「こどもまつりをする?しない?どうする?」子どもに投げかけ、子どもがどうしたいのか?子どもの思いから活動が始まっていくようにしている。



自分がしたい!と思うお店のグループに集まってきた友だちと一緒に活動することで、それぞれの意見を取り入れ合っで活動を進めている。この時期だからこそできるグループ活動。同じ興味を持った者どうしだからより盛り上がるようだ。

年長会議を重ねる中で、「どんなお店をしたいか」プレゼンをしながら4つのお店が決まった。



保育者は話し合いの様子を見守る。必要に応じて子どもの意見が伝わりやすいよう、具体的にイメージできるように質問したりするが、答えは子どもたちが自分たちで考え、決定していくことを大事にしている。

お店づくり 開始



出てきたアイデアは、ホワイトボードに書いておくことで「見える化」に!取り組んでいる中で新たなアイデアが出たり、明日したい活動等を書いたりして計画を立てるのにも役立っている。



廃材は普段から園に持って来ては使って遊べるように、廃材を種類ごとに分けて置いてあり、子どもたちが使いたい時に取り出せるようにしている。

「何で叩くか?」いろいろ試した結果、「ハンマー」のようなものを作りたい!「じゃあ何で作る?」と卵パックが使いやすことにひらめいた!



初代「モグラ」は割りばしにモグラの絵を描いた紙を貼ってペーパーサート風にしていたが、遊んでいる間にポロポロとなり……。そこで、叩かれても壊れないようにラップの芯や牛乳パックを使って2代目「モグラ」を考えました!遊ぶ中で上手くいかない所は工夫と改善を繰り返していた。

こどもまつり当日



「穴あけて下からプスプスしたいねん!」年長会議のプレゼンの時から言っていたことをこのような形にした。



●遊びの充実と育ちや学びにつながるポイント(振り返り)

- ・ 年長会議の良い点は、同じ時間や空間、同じ空気感の中で、同じ保育者の話を聞けることである。子どもたちは一緒に期待やイメージを膨らませることができる。この時にどのような気持ちを持てるかが今後の活動に大きく影響する。「導入」は、本当に大切。また、いろいろな友だちのアイデアを聞くことができることで考えるヒントが得られる。自分の考えたことを聞いてもらったり、共感してもらったりすることで自己肯定感や自信につながったり、子どもどうして互いの「よさ」に気付くことができる時間である。
- ・ 「自己選択・自己決定」自分のしたいことは自分で決める。これが何より主体的に・積極的に・自らかかわろうとする姿につながる。
- ・ 使いたいものがどこにあるか分かる環境、使いたい時に自分で出して使える環境は「したい」気持ちにつながる環境。物を見てアイデアが生まれてくるような環境を整えることも活動の広がり大きく影響している。
- ・ 自分たちで作ったもので遊ぶ(試す)→上手くいかなかったことに気付く→どうしたらいいか?(考える)→新たに考えたことをやってみる(工夫)。子どもが上手くいく、成功することばかりを援助するのではなく、上手くいかない時もそばで見守り失敗する経験もできるよう「見守り・待てる保育者」になるようにする。
- ・ 何事も「失敗は成功のもと」。子どもたちは、今までの遊びの経験からいろいろなアイデアを出し、工夫しようとする。上手くいかないことから気付くこと・学ぶことは多く、必ず失敗の経験は今後活かされていく。
- ・ 異年齢児が遊びに来てくれた時のことを想定して、「どうすれば楽しく遊んでもらえるか?」相手の立場に立ち考え、遊びの場をつくったりもしている。「思いやりの心」の成長が見られたりもする。
- ・ 子どもらしい発想やアイデアを大切に共感し、子どもが自分たちで考えたことを実現させようと「試行錯誤」する姿を見守れる保育者になることが大切である。
- ・ 子どもたちが考え、自己決定しながら思いを実現させていく過程の中で、保育者は子どもの気持ち・時間・活動・友だちを「つなぐ」(繋ぐ)陰ながらのサポートをすることも必要である。

【サーキット遊び】 3・4・5歳児

ねらい：いろいろな運動を通して楽しく体を動かしながら、身のこなし方を知り、体力作りをする

難しいことや苦手なことにも挑戦し、できた時の達成感を味わう

【内容】

平均台

リズムジャンプ

縄跳び (年中・年長)

キックボードかストライダー

鉄棒・的当て・かけっこ



次は落ちないぞー

子どもの思い

ゆっくり渡っても
何で落ちるんだろう？

その他、吹き出しは、
子どものことば

もっと、足あげて！
お手本見せたる
しっかり、見てて



もう少し

なぜ運動遊びが充実したのか？
サーキットの内容を学年ごとに話し合い成長段階に合わせた内容にすることで普段の遊びの中でも挑戦することができた。子どもたちなりに工夫をして展開させることで主体的に取り組める子が増えてきた。

遊びの中での豊かな学びや育ち
自分一人では挑戦しにくいことも、友だちと一緒に取り組むことで興味を持ち、難しいことにも挑戦する姿があった。友だちに対して思いやりの気持ちやできないと悔しいなど、心の成長も見られた。何度も繰り返し挑戦していく中で、できた喜びや達成感を味わい、次の目標を見つける子も出てきた。

環境構成・気をつけたこと
競争心が出てきた子たちが、何でも競争したり、苦手な運動を避けたりしてしまう子がいたので、一緒に挑戦できる環境づくりを心掛けた。また、子どもたちが楽しみながら挑戦できるように学年に合わせた内容にし、興味を持って、積極的に挑戦できるように工夫した。



早く～おいで

♪音楽に合わせて
いろいろな
跳び方を
します



頭・肩・
ウ・トン・トン



最高記録！

友だちに負け
たくない・・・

何で、そんな
早い？

振り返り
サーキットを通して、体を動かすことの楽しさを知り、苦手なことにも「挑戦したいと思う気持ち」が芽生えてきた。友だちとのかかわりが自然と増え、友だちが不安そうにしていると、声を掛け一緒に取り組み、気持ちに寄り添う姿も見られるようになってきた。すぐに結果が出なくても、保育者や友だちが認めることで自ら苦手なことに挑戦でき、それが自信や達成感にも繋がってきている。

【跳んでみよう】3・4・5歳児

ねらい：十分に身体を動かしながら遊ぶ楽しさを味わう

なぜ運動遊びが充実したのか？

- ・伸び伸びと身体を動かし心地よくなった
- ・友だちと一緒に遊んでいるうちに楽しくなった
- ・試行錯誤しながら繰り返すうちに考えや工夫が生まれた
- ・自分の力でやってみたい気持ちが高まった



まっすぐにしたら
跳べるかな…

膝を曲げて…

足を揃えて…

こうするねんで！ぴょん！

息を合わせて
せーのーそれっ！！

1回、2回、3回…

環境構成・気をつけたこと

- ・目に見えて、やってみたくなる環境をつくる
(子どもの興味に合わせて縄跳び・フープ・巧技台など)
- ・何度も繰り返し挑戦できるような機会をつくる
- ・工夫していること、意識していることなどを
友だちと言葉で伝え合う場を設ける

遊びの中での豊かな学びや育ち

- ・友だちの動き見てタイミングをつかむ
- ・跳べた回数を数え合い数量への関心を持つ
- ・友だちに声を掛けたり自分なりの工夫した点や
考えたことを伝え合ったりする

段々と早くなってきた！
楽しいな～

見ててな～

うまく
跳べるかな？

グー、パー
グー、パー

振り返り

環境を整えることで、身体を十分に動かしながら楽しめた。何度も繰り返すことで子ども自身に気付きが生まれ「もう一回やってみたい」「うまく跳べるようになりたい」と意欲が高まっていった。また、友だちの跳び方を真似てみたり、タイミングやコツを言葉で伝え合ったりすることで、イメージを共有し、友だちと一緒に楽しみながら自ら進んで取り組んだ。諦めずに挑戦したり、やり遂げたりしたことが自信となり、次への様々な活動にも意欲的に取り組むようになった。

【体操教室楽しいよ！】～運動が苦手な子への支援～ 4歳児

ねらい:いろいろな運動遊びに興味を持ち、身体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう



鉄棒ちょっと
怖いなあ

やったあ！
できたね

できた！
怖くなかった

遊びの中での豊かな学びや育ち

- ・向き合い、寄り添うことで信頼感が生まれ、次の段階へスムーズに進むことができる
- ・できるようになったことで喜びを感じ、自信が生まれる
- ・だんだん恐怖心が薄れ、運動遊びが楽しいと感じられるようになる
- ・跳び箱やボール遊びなど、他の運動遊びにも「やってみよう!」と前向きに取り組む



なぜ運動遊びが充実したのか？

- ・しっかりと向き合い、繰り返し前向きな言葉掛けをすることによって苦手意識や恐怖心を取り除くことができた
- ・少しずつできるようになったことが自信につながり、「もう一回やろう」という意欲がでてきた
- ・寄り添いながら一緒にやる中で、できたことを褒め、共に喜び、楽しさを伝えていった



うまく
できるかなあ

だいじょうぶ！
ぜったいできるよ

環境構成・気をつけたこと

- ・幼児の思いに寄り添う
- ・どのような言葉掛けが意欲を引き出せるのか見極める
- ・少しでもできたら、たくさん褒める
- ・取り組む姿勢や気持ちの変化を友だちにも伝え、認め合えるようにする
- ・戸外遊びの際にも、気軽に鉄棒に触れる機会をつくるようにする

振り返り

- ・初めて取り組むことに不安が先に立ち、体操教室にもなじめない幼児に対して、安心して参加できるよう、保育者が体操教室と一緒に参加したり、「大丈夫」「できるよ」「一緒に行こうね」などの言葉を掛けたりして、寄り添うことから始めた
- ・あきらめず繰り返しチャレンジするうちに、恐怖心が薄れていった
- ・何度も取り組み、達成感を味わい、自信につながった

【ドッジボールをしよう】5歳児

ねらい：○ボールをかわすスリルや相手を狙ってボールを当てることを楽しむ

○友だちと一緒にルールや作戦などを考えながら一緒に遊びを進める楽しさを味わう

去年、年長さんがしていたドッジボールしよう



自発活動

みんなで
したいな

数日間続く

2チームにわかれるよ
ボールに当たったらアウト

ルールの共有



・設定保育でも繰り返し取り組み、自発活動でのドッジボールも活発になった。



設定保育

ボールを
キャッチできた！

顔にボールが
当たったらどうしよう

顔と頭は当たっても、
セーフにしよう

なぜ運動遊びが充実したのか？

- ・自発活動や設定保育で繰り返し遊ぶ時間があつた
- ・ルールを自分たちで伝え合い共有した
- ・ボールを「遠くに投げる」「よける」「狙って当てる」「キャッチする」などそれぞれがおもしろく感じたり得意になったりするポイントがあつた

遊びの中での豊かな学びや育ち

- ・ルールや気付きなど言葉で伝え合う
- ・できるようになった喜びや自信
- ・友だちへの思いやり
- ・友だちと協力して遊びを進める
- ・勝った喜び、負けた悔しさを友だちと共有する
- ・数や空間への関心(チームの人数、勝敗、コート大きさ、ボールを投げる距離)

環境構成・気をつけたこと

- ・自発活動ですぐに遊びだせるように園庭にコートをかいておく
- ・設定保育では人数に応じたコートの大きさを考える
- ・ルールを共有する際はホワイトボードを使って幼児の話をもとめる
- ・投げ方、よけ方を工夫している友だちの様子を見合う機会をつくる
- ・ゲーム終了のタイミングはその日の幼児の状態に合わせて変える(5分間や最後の一人が当たるまでなど)
- ・細かなルールはその場で幼児と共に決めていく

振り返り

- ・幼児がドッジボールに興味を持ち始めたタイミングでクラス全体でも取り組んだことで、遊びが広がった。
- ・興味のなかった幼児もクラス活動で繰り返し取り組む中で、うまくボールをよけることができたり、投げたボールを当てることができたり、ボールをキャッチできたりしていた。成功体験をしていくことでおもしろさを感じ、意欲的に活動に取り組む姿につながった。
- ・遊びのルールを話し合う中で、友だちの思いを聞き、ルールの必要性を感じ、考えを伝え合う姿が見られた。

(4歳児)

感じたい、考えたいしたことをやってみよう！(フープ)



- ねらい
 - ・感じたこと、考えたことをやってみよう
 - ・フープを使った遊び方を知り、楽しんで取り組む

活動経過

フープを使って遊ぼう！

「転がるのかな？」
 「回るのかな？」
 「回せるかな？」



工夫をし始める

「転がった」
 「転がし方を変えると
 戻ってくる！」
 「手で回った！」
 「腰で回せた！」



上手になりたい(願い)

「もっとうまく回したい」
 「友だちにみたいに回したい」
 「友だちやお母さんに
 見て欲しい」
 「もっと難しいことに
 挑戦したい！」

○幼児の姿

- 園庭にあるフープを使って遊ぶ。
フープの中に入ったり、転がしたりして遊ぶ。
- 年長児が腕や腰で回しているのを見て真似る。
すぐに回せて夢中になっている子どもや、すぐに飽きて違う遊びをしている子どもなど様々である。
- 回し方を工夫するようになる。
上手に回している子どもを見て、どのように工夫したら早く回るのか、長く回せるのかなど、考えて行うようになる。
回せるようになると、友だちに教えようとする。
- クラスの皆と一緒にフープで遊ぶと楽しいと思うようになる。
アイコンタクト取りながら回したり、励ましたりする。

・環境構成・保育者の援助

環境構成

- ・園庭遊びで使えるよう大小のフープを用意しておく。
- ・年長児がフープで遊んでいる姿が見れるようにする。
- ・友だちや保育者も一緒に遊ぶ。

試行錯誤

- ・子どもが何に興味を持っているのか遊んでいる姿や言葉から気付けるよう、行動や態度を見守る。
- ・フープを使って、試している姿を見守り、子どもが気付いたことを一緒に試したり、工夫したり、共感したりする。
- ・フープを回している友だちや年長児を見て「あんな風に回してみたい」と憧れを持った時、どうしたら上手く回せるかを一緒に聞きに行く等する。
- ・もっと上手く回したいと友だちに教えてもらったり、教えたり、子どもどうして高め合おうとする姿を見守る。

考察

キーワード

憧れ

試行錯誤

認め合う

保育者の読み取り

★「なぜ遊びが充実したのか」

◎「なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか」

★年長児が回している姿を見て“あんな風にまわしてみたいな〜”と憧れを持ったことをきっかけに、やってみようという意欲が見られた。年長児を真似るだけでなく、自らどうすると回るのか、長く回るのかなど試行錯誤していく。その中で気付いたこと、工夫したこと、失敗したこと、上手くなったことを友だちや保育者と共感し、認められたことにより、更にフープを回すことに夢中になっていった。

◎保育者がフープの遊び方を知らせるよりも、フープの回し方を自分で工夫し、友だちと一緒に試行錯誤したことを認めてくれる友だちや保育者がいたことで、子どもどうしが認め合い、他者への信頼感を獲得したように思う。そして「もっと難しいことをやってみよう」「保護者にも見て欲しい」という気持ちの高まりから、運動会で行うことで、更にたくさんの人から認めてもらえた経験が自己肯定感を育むことへつながった。

(5歳児)

意欲を高める運動遊び～友だちも自分も認めよう～



- ねらい
 - ・運動を通じて友だちと認め合う
 - ・身体を動かして遊ぶなかで、意欲を高める

活動経過

縄とびを楽しもう！

「縄を回したり、自分なりに跳んだりしてみよう！」



自分にあった縄を見つけよう！

- 「長さはどれが回しやすいかな」
- 「どんな縄が使いやすいかな」
- 「持ち手はどれが握りやすいかな」



いろいろな跳び方に挑戦しよう！

- 「こんな跳び方があるよ」
- 「どんな回し方をしたら、うまく跳べるかな」
- 「どのタイミングで跳んだら跳べるかな」

○幼児の姿

- 「できる」「できない」や周囲の評価を気にしがちな子どもが多く、できないからと取り組む前に諦めてしまったり、取り組みを拒否したりする姿が見られる。
- 「できる」「できない」が顕著に見える活動の為、苦手な子が進むに後ろ向きになる姿が見られる。
- 自分の回しやすい縄を見つけ、チャレンジしてみる。
- 友だちの跳んでいる姿を見て、良いところを見つける。
- 友だちの良いところを意識して、自分なりに試してみる。
- 自分の良いところに気付く。
- 回数を重ねることで、徐々に自分なりに跳べるようになってくる。
- 友だちの取り組んでいる姿を見て応援する。
- できないところを考え、友だちの姿を参考に自分の動きを意識する。

・環境構成・保育者の援助

環境構成

- ・継続して楽しみながら取り組めるような働きかけを行う。
- ・緊急事態宣言中の原則休園期間に、家庭でも取り組めるように、園のホームページで「縄とび頑張りカード」を配信する。
- ・道具は、各自が回しやすい縄（長さや持ち手を工夫する）を準備する。

話し合い活動

- ・友だちの取り組む姿を見て、素敵なおところを見つける。
- ・自分たちでポイントを見つけられるよう必要に応じて助言をしながら、子どもからの発言を待つ。
- ・上手に跳べる姿だけでなく、頑張りなどに気付けるよう働きかける。
- ・自分のできているところを考えてみる。

試行錯誤

- ・跳ぶタイミングや回し方等、様々なやり方を試してみるよう働きかける。

考察

キーワード

個・集団の育ち

意欲の高まり

保育者の読み取り

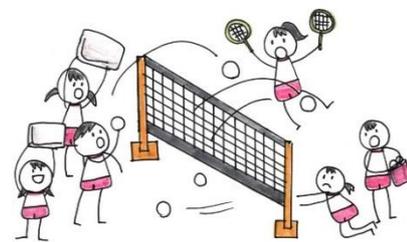
★「なぜ遊びが充実したのか」

◎「なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか」

- ★素材の異なる縄を数種類準備し、子どもたちが自分に合った縄を選択できるようにした。
また、縄の持ち出(グリップ)部分にホースを通したものを補助具として取り入れることで、縄が安定し、跳びやすくなる子どももいた。
- ★長期間での見通しを持ち、時間をかけて取り組むことで、できなくても焦ることなく自分のペースで取り組むことができた。
- ★自分のできているところや頑張りなどを認めてもらうことを基盤とすることで、苦手なことも参加できる活動となった。
- ◎集団の中で互いに認め合う機会を通じ、自分の活動に自信を持って取り組むことができた。
- ◎できなくても否定をせず、常に子どもたちの活動を認めてきたことで、前向きに取り組むことができた。
- ◎目標とする動きは「少し頑張ればできる」という設定にし、負担にならず少しずつクリアできるように考えた。
- ◎家庭でも意欲的に取り組めるような工夫をすることで、保護者とともに成長を感じることができ、達成感を得ることができた。また、やる気を持続することができた。

(5歳児)

身体や道具を巧みに使って～チームで作戦を考えよう～



- ねらい ・友だちと共通の目的に向かって作戦を考えたり、協力したりする
- ・身体を動かして遊ぶなかで、充実感を味わう

活動経過

玉入れの玉を使って、ゲーム遊びをしよう！

「相手の陣地に、たくさん玉を投げ入れよう！」



ネットの出現

「前よりも高く投げないと、相手の陣地に届かないよ」
「下にも隙間が空いているけど、上と下、どちらから入れるとたくさん入れられるかな？」



いろいろな道具を使ってみよう！

「たくさんの玉を一度に入れるにはどうすればいいかな？」
「どの道具を使うか、誰が何の役をするか、勝つためにチームで作戦を考えよう！」

○幼児の姿

- ドッジボールやリレーの経験から、チームの人数を揃えようとする。
- 玉の数を数える際、1列に並べると数えやすいことに気付く。
- 自分の身体の動きと、ネットまでの距離、投げる高さを調整している。
- 作戦会議をして、友だちと役割分担をしたり、協力したりしようとする。
- 道具によって、使い方を考えながら自分なりに試してみる。
- ネットの上からバケツで球を投げ入れる。
- 飛んできた球をお盆で防ぐ。
- ラケットで球を押し込んだり、遠くまで打ち込んだりする。
- 遠くから投げたり、ネットの下から転がしたりする。
- 回数を重ねることで、友だちとの役割分担が成立するようになってくる。
- 友だちの姿を参考に、自分の動きに取り入れてみようとする。
- 試したり、振り返ったりしたことを次に活かそうとする。

・環境構成・保育者の援助

環境構成

- ・勝敗表や10のまとまりを示す表などを用意し、視覚的に数量の比較ができるようにする。
- ・ネットの高さや試合時間などを調整し、十分に身体を動かす機会をもてるようにする。
- ・道具は、幼児が使い方をイメージしやすいものや、遊びや生活の中で使用した経験のあるものを用意する。

話し合い活動

- ・幼児の思いに寄り添い、考えや思いを引き出す。
- ・自分たちで話し合えるよう、時折助言をしつつ、見守る。

試行錯誤

- ・勝敗にこだわることで、勝つための作戦を練ろうとする姿を引き出す。
- ・自由に道具を選択できる数を用意し、何度も持ち替えたり、試したりできる機会をもつ。

考察

キーワード

集団性

試行錯誤

保育者の読み取り

★「なぜ遊びが充実したのか」

◎「なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか」

- ★幼児にとって「玉を投げる」という分かりやすい運動から、段階を踏んでルールを変化させていったことで、全員がルールを理解して楽しんで活動することができた。
- ★保育者が意図的に環境構成をしたりゲームの時間を調整したりしたことで、幼児にとって十分な運動量の確保に繋がった。また、両方のチームの満足感や興味の持続に繋がった。
- ★個々の幼児の体力や運動能力に応じて動き方を選択できることで、全員が楽しんで参加できる活動となった。
- ◎道具を使用することにより、投げる・転がす動きに加えて、道具を使って防ぐ、押し込む、バケツを使って投げ入れる、打ち返すなどの動きが加わり、動きが多様化した。
- ◎勝敗のあるゲームのなかで、作戦を考えたり役割分担したりすることで、年長児らしい集団性を育む活動に繋がった。
- ◎活動の計画の時点で、「幼児期の終わりまでに育みたい10の姿」を意識しながら、幼児の姿や育みたい力を整理したことで、保育者がより意図的に環境構成をしたり声掛けをしたりすることができた。

(表現)

★環境の構成 ○幼児の姿 △保育者の援助 ▲保育者の読み取り

<色水で遊ぼう> 3歳児Ⅱ期 (6~7月頃)

ねらい ○色の美しさを感じながら水に関わって遊ぶことを喜び
○水の心地よさを感じながら遊ぶことを楽しむ

10の姿

*豊かな感性と表現 *思考力の芽生え

遊びが始まったきっかけ

好きな遊びの時間に園庭で、色水遊びをする幼児がいる。最初は、5歳児の担任が設えていた色水に興味を持ったA児が、色水に興味を持ち、姉(5歳児)と一緒に遊ぶ姿が見られた。他児も、興味を持ち始めた為、3歳児の保育室の近くに3歳児の発達に応じた色水遊びや泡遊びの場を設えることにした。

遊びの経過

おねえちゃんみたいに あそんでみたいな



きょうも あ〜そば!



これのほうが いれやすいなあ



知識及び技能の基礎
【気付き、発見】

★色水(3色)、ペットボトル、カップ、ヤクルト容器、じょうご、おたま、固形洗剤のスプーンを設える。
○A児は、3歳児保育室前の色水遊びの場で遊び始める。他児も、興味を持ち、ペットボトルに色水を入れたり、色を混ぜたりすることを楽しんでいる。
△一人ひとりが存分に色水に関わって遊ぶことができるようなものの数を準備したり、色水を補充したりする。
▲色水に関わりながら遊ぶことで、水に触れることの心地よさを感じている。水をカップに入れたり、水を移したりすることを楽しんでいる。色が付いていることによって、興味をより引き出したのではないか。

○毎日継続して、遊ぼうとする幼児の姿が見られる。繰り返し遊ぶことによって、最初は5歳児が使っているおたまに慣れて使っていたが、おたまより柄の短い固形洗剤のスプーンやヤクルト容器ですくったり、じょうごを使ったりなど、使いやすいものを選び、色水を入れることを楽しむ姿が見られるようになった。
▲様々なものに触れながら遊ぶ中で、ものの特性に気付き、扱いやすいものを選ぶようになったのではないか。

まぜると ぴんくになっ



こっちのほうが こいね

思考力・判断力・表現力の基礎
【試行錯誤、工夫・予測、比較】

どっちも きれいね



ちがう いろだね

学びに向かう力、人間性等
【色の美しさや変化する面白さ・好奇心・探求心】

△混ぜても色が濁りにくいような組み合わせの色水を準備する。
○色が混ざると、色が変わることに気付き、保育者に伝えようとする。また、いろいろな色の色水をつくり、並べる姿が見られるようになる。
▲混ぜることで、どんどん色が変化していくことの楽しさを感じ、いろいろな色の色水ができることを喜んでいるのではないか。

○つくった色水を保育者に見せたり、友だちと比べたりする姿が見られる。また、色水をジュースに見立てて遊ぼうとする姿も見られるようになる。
▲“自分でつくったもの”を見てほしいという思いを持ち始め、保育者や友だちとかかわろうとする姿につながったのではないか。

なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか?

- ・十分な量のものがあったり、保育者が近くにいたりすることで安心して過ごせる場があった。一人ひとりのペースが保障されており、遊びの楽しさを見つげられた。
- ・楽しさを感じることで、繰り返し遊ぶ姿が見られ、その中で、ものの特性に気付き、また次の楽しさを感じる事ができた。

考察

なぜ遊びが充実したのか?

1. 安心して遊べる場の雰囲気
2. 水の心地よさ
3. 色の変化
4. 十分に遊ぶことができる時間
5. 3歳児の発達にあった様々な道具

(表現)

★環境の構成 ○幼児の姿 △保育者の援助 ▲保育者の読み取り

〈ぱくぱく人形作り〉 3歳児 Ⅲ期 (9・10月)

10の姿

- *自立心 *協同性 *思考力の芽生え
- *言葉による伝え合い *豊かな感性と表現
- *社会生活との関わり

ねらい

- ・作った人形で口をパクパク動かして遊ぶことを楽しむ
- ・人形を使って友だちとお喋りしたり、かかわったりすることを楽しむ

こんにちは、一緒に遊ぼう！

何して遊ぶ？

一斉保育の制作活動の一場面



少し前から園のパペット人形を使って遊ぶ子どもの姿がある。
 パペット人形を使うことで子どもどうしの言葉のやり取りが
 増えている姿にヒントを得て一斉保育に取り入れた。

どんな食べ物が好き？

パクパク
楽しいね

知識及び技能の基礎(制作過程)

思考力・判断力・表現力の基礎(遊びと試み)

- ★保育者が見本を作って保育室に飾っておく
- 紙コップに手を入れて口が動くことに興味を持つ
- ★4人～6人のグループで友だちとのかかわりを持ちながら作れるように環境づくりをする
- 友だちと会話を楽しみながら制作に取り組む
- △保育者が人形を使って子どもとかわる
- ★いつでも人形を使えるように自己管理にする

- 口をパクパクさせながら喋ることが楽しい
- 友だちにどうやってかかわればいいのか分からず話しかけられるのを待っている子がいる
- △人形で子どもに話しかけると子どもも人形を使って話しかけてくる
- できた人形の口を動かし友だちと会話を楽しむ
- 人形を使うことで自然と友だちに話すことができる
- ▲子どもが何を楽しんでいるか、どのように人形を使い、友だちとかわっているのかを観察する
- △相手の思いに気付いたり、受け入れたりして楽しさを共感できるようにかわる
- 自分の人形になりきって自由な表現を楽しむ
- △子どもなりの思いが出せるように共感・代弁したりする

学びに向かう力(工夫と発展)

- ▲自分で作ることで遊びの満足感や嬉しさを得た
- 人形を大切に扱おうとする
- おままごとコーナーに持ち寄ったり、朝の会で一緒に人形の口をパクパクしたりして歌を歌った
- ▲人形を通して子どもどうしのかかわりや言葉のやり取りが活発になった

考察

なぜ遊びが充実したのか？

1. 内容 (簡単に作ることができる、扱いやすい)
2. 材料 (手に入りやすい)
3. 時間 (自由時間にいつでも遊ぶことができる)

なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか？

1. 自由な表現、友だちとのかかわりを楽しんだ
相手の思いに気付く・受け止める
また自分の思いを言葉で伝えることができた
2. 育ちを具体的に言葉にして伝えたこと
「(友だちと)お話すって楽しいね」
「言葉で伝えるって大切だね」

(表現)

〈段ボールで遊ぼう〉4歳児Ⅲ期(9月~12月)

ねらい

- ・段ボールを使って自分のイメージしたものを工夫しながら作る
- ・友だちと協力して作っていく楽しさを知る

段ボール製作週間三日目の一場面

段ボールで机を作ろうとするA児がいた。グラグラしてうまく立たないので困っていた。そこにB児が来て、一緒にガムテープを貼り固定しようとするが、うまくいかない。保育者は、子どもたちでどのように考え、工夫していくのか様子を見守ることにした。

遊びの経過

どうしたらちゃんと立つかな？

下を固定したらいけるかも！

① 知識及び技能の基礎【気付く】

② 思考力・判断力・表現力の基礎【工夫する・試す】

★制作活動が四日間連続して行えるように環境づくりをする。
 ★ガムテープ、段ボールカッター、はさみなどの用具も自由に使えるよう準備しておく。
 ○A児は机を作ろうとするがグラグラして固定することができず困っている。そこへB児がやってくる。
 △B児にA児が固定できずに困っていることをさりげなく伝える。
 ▲製作活動に積極的なB児と一緒に取り組むことで、自分たちで考えたり、工夫したりしながら活動できるのではないかと考える。

○A児とB児は天板をつけると固定するのではと考え、ガムテープを貼っていく。
 ○しかし、まだ足元がぐらつくので、次は足元にガムテープを頑丈に貼っていった。それでも不安定なので、二人で悩む。
 △箱になっている段ボールを見せて「これはグラグラしないね。どうしてかな？」と声を掛けた。
 ○それを聞いたB児がひらめいたように、小さく切った段ボールを折り曲げて、足元に固定し始めた。

③ 学びに向かう力・人間性等【目的の共有・協力】

○まわりで遊んでいた幼児たちが集まり、作った机の上に料理を並べ、ごっこ遊びが始まる。
 △友だちと協力してできたこと、諦めないで自分たちで完成したことを他児に紹介し、A児B児の達成感を育てる。

これ、一緒に作ってんで！

みんなでパーティーしようよ！

○A児とB児は、協力して足元を固定し始めた。
 ○安定してきたことに二人で喜び、さらに頑丈にしていく。
 ▲自分たちだけでできたという喜びでさらに活動が勢いになってきたと考える。

考察

なぜ遊びが充実したのか？

1. 時間の確保(1.5時間×4日間)
※子どもが繰り返し遊べる時間の確保
2. 材料の確保(大量の段ボールと廃材)
3. 場所の確保(一部屋製作のため貸し切り)
4. 自由に用具が使える環境(ハサミ、ガムテープ、段ボールカッターなど)

なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか？

1. 子どもが夢中になって遊ぶ中で「気付く」「試す」「失敗する」「工夫する」が十分できたこと
2. 育ちを具体的に言葉にして伝えたこと
「諦めないで取り組むこと」
「友だちと協力する大切さ」

★環境の構成 ○幼児の姿

△保育者の援助 ▲保育者の読み取り

10の姿

- *自立心 *協同性 *思考力の芽生え
- *言葉による伝え合い *豊かな感性と表現

(表現)

「体を動かそう」表現遊び 5歳Ⅱ期(6月～7月)

ねらい・・・体を動かす遊びを楽しみながら

体の仕組みや部位を知る

場面・・・体に関する遊びの活動が始まり、子どもたちが

興味を持ち始め、いろいろな遊びに展開していくところ

★環境の構成 ○幼児の姿 △保育者の援助 ▲保育者の読み取り

10の姿

- ・健康な心と体 ・協同性 ・思考力の芽生え
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現

①体に興味を持つ(知識及び技能の基礎)

「体ってどうなってるの?」「ここなんていう名前?」

ここは
「ふくらはぎ」
って言うんだって



- ★体に関する絵本を置いてコーナーを作る
- 絵や絵本を見て体のことや細かい部位にも興味を持つ
- ▲子どもたちが体について興味を持ち、会話していることに耳を傾ける

②ポーズや動きを真似て自分の体を動かす(思考力・判断力・表現力等の基礎)

「こんなことできるかな?」



ポーズ君と
同じポーズ
できるかな?

- ★厚紙で関節を動かせる人形を作る
- △子どもたちが次第に真似て体を動かしてみたいと興味を持てるよう、いろいろなポーズを人形で表現していく
- ポーズを真似ながら表情もイメージし、表現したり言葉で伝え合ったりする
- ▲視覚から興味を持ち、自然と体が動き出し前進で表現する楽しさを感じている

③集団遊びや自由遊びの時、子どもたちでルールを決め、体を使って表現したり、体の部位が会話の中で出たりする(学びに向かう力・人間性等)

「氷鬼やろう!」「ツイスターゲームしよう」



- ★それぞれの遊びに合った場所を提供する
- ★体を動かす・体に関するもの等、遊びが選べるよう用意しておく

このポーズは
どう?

右手は
ここ?



タッチされたら
このポーズ



お尻がつき
そうだよ～



両手を上げて
ばんざいの
ポーズを
しているね

- 考えたポーズを描いたり友だちが描いたりしたものを見て共有する
- どう描いたらいいのか難しいところは、保育者や友だちと相談しながら仕上げる
- △描くのが苦手・戸惑っている子には、そばにつき不安を安心へと繋げていく
- できあがった絵を見て真似る

【なぜ遊びが充実したか】

- ・保育者も一緒に楽しむ
- ・環境・準備物は早い段階で計画を立て準備する
- ・体に興味を持てるよう見たり触れたりできるものを用意し、次々と遊びを展開していく

【なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか】

- ・いろいろな活動の中で表現遊びをし、体や細かな部位に気付いたり興味を持ったりした
- ・表現することを考えたり思いを伝え合い受け入れてもらえたりしたことが自信となり、子どもどうして話し合い、遊びが広がった

- 考えたポーズを伝え合い、鬼ごっこをしながら表現することを楽しむ
- △子どもたちの話し合いを見守る
- 自分たちで遊びを選び、体を使って楽しみながら部位の言葉が会話の中に出てくる
- △新しい遊びはルールを守る大切さを伝える
- ルールを守ることで友だちと楽しく遊べることを知る
- ▲体の部位が分かり、体を動かしているいろいろな遊びを経験していくうちに子どもたちでルールを考え、遊ぶ姿が見られるようになった

保育のねらい

異年齢でかかわり合いながら、氷の感触やお絵描きを楽しもう！

事例に出てくる吹き出しは…



『氷絵の具でお絵描きしよう!』

夏の氷遊びの延長で、氷に色を付けて、絵を描いてみよう!と提案。どうやったら氷で絵を描ける? たてわりグループでの話し合いを中心に自分たちで色んなことを試してみよう!

子どもが気付いたことを何でもやってみる! 前日から絵の具で溶いた水を凍らせておく。色々な準備をして試せる環境をつくる。

冷たくて気持ちいいけど、手が絵の具でべとべと・・・うまく絵が描けないなあ・・・



なるほど! 持ち手を作ったら、手が汚れないね。いいことに気付いたなあ。何を付けたらいいか、絵の具の量など話し合えたらいいなあ。

手が汚れるから持つところ作ったら? 水の量より絵の具の量を増やしてみたらどうかなあ?(思考力の芽生え)

子どもたちの会話で出たつまようじや、割りばしを切ったものを挿して氷絵の具を作ってみる。絵の具の量も増やしてみる。

たてわりグループで、年齢の小さい友だちとのかかわり方、伝え合い方を考え、学ぶ。(協同性)(言葉による伝え合い)



絵の具みたいになってきた! 手も汚れにくい! でも、線が太すぎて絵が描けない・・・

氷で細い線は描けないから、線は別のもので描いてみる?

ペンで描く? クレヨンで描く?

みんな絵を描けなくて悩んでるなあ。どうやったら絵になるか、また話し合ってみよう!

ペンで描いて氷絵の具で色を塗るのはどう?

ペンやクレヨン、様々な画材の準備。自由に使える環境を整える。(試す・工夫する)



ペンは分かりやすいけど、にじんじゃうね。

絵の具で線を描いても、線が分からなくなるから意味がないね。

クレヨンは絵の具をはじいてるよ! クレヨンがいいんじゃない?



- ・子どもの気持ち、やりとりを尊重し、共感する。
- ・子どもが活動しやすく、いろいろなことを試せる環境をつくる。
- ・子ども一人ひとりが興味を持って関わり、楽しめているかどうか。

(保育の振り返り) 話し合いはスムーズにいかない時も多く、事例にあげた以外にもたくさんの意見が出てきたが、できるだけ子どもたちから意見を出してもらおうよう、保育者は必要最低限の声掛けや援助を心掛けた。最終的には、みんなが「クレヨンが一番絵の具と相性がいい」ということに気が付いた。たてわり保育ということもあり、自然と小さい年齢の子がクレヨンで絵を描き、大きい年齢の子が丁寧に色を塗ってみたり、塗り方を教えてあげたりする姿が見られた。画用紙ではなく、布だったらどうだっただろう? 次回に繋げていくことも大切。子どもたちの意見を尊重し、やってみようとする気持ち、また、やれるような環境づくりが大切である。

保育のねらい

水の心地よさを感じながら、水の面白さを感じて遊ぶ

事例に出てくる吹き出しは…

子どもの言葉

子どもの思い

環境の構成
再構成

保育者の思い

この活動の
見取り

『透明チューブに水を流したい?!』

夏。園庭で存分に水遊びをする子どもたち。
園庭にあるチューブを発見。
誰にいわれるでもなくチューブに水を流そう
と子どもたちが集まってきた。
どうやって水を流す?

なんだか気になる!
多分こうなる?
こうできるんじゃない?
…と子どもの心をくすぐる環境の構成

子どもが気付くまで、
子どもが動き出すまで、
待つ!…という人的環境



あっ!
気付いた!
おー! やってる!

こっちでも!
友だちとおなじ
方法でやってる!

あの子みたいに水を流そう!
…でも、誰かに押さえてて
もらわないと水こぼれるなあ~



友だちの動きが意識し合える
距離感、友だちと順番になる
場やものの数…など環境を
構成

もう一回!
あれ? あの子バケツじゃ
ないのでやってる!
あれの方がいいみたいや
(こぼれへん)!

先生! そこ押さえといて!
(そしたら、こぼれないはず!)
(…よし! うまくいった!)



透明チューブに水を流す。
できれば、こぼさないように、
そして、できるだけ自分で!

友だちの動きを見て学び、自分のものとして
行動に移す。
見る→試す→工夫する・繰り返す…
そんな姿です。保育者の言葉はできるだけ
少なく! 子どもの気付きへの共感を中心に!



保育を振り返って

子ども自身が気付き、考える時間が持てているのがよかった。今後も一つの遊びや活動
に対して「もう一回!」という思いや「明日もやってみようかな?」と継続して遊びを
経験できる環境(場所・時間)の確保で、さらに学びが深いものになるだろう。